

株主通信

2023年

アームが米NASDAQに上場
同社とAI投資先を成長の両輪として
NAVの拡大を目指します

 SoftBank
Group

ソフトバンクグループ株式会社 証券コード:9984



株主通信 2023年 目次

2 …… 株主の皆さまへ

3 …… 2023年度上期の事業概況

4 …… 特集①アーム上場、さらなる成長へ

6 …… 特集②ソフトバンク・ビジョン・ファンド事業

7 …… サステナビリティへの取り組み

株主の皆さまへ

当社は「情報革命で人々を幸せに」という創業以来変わらない経営理念の下、情報技術の発展によって社会やライフスタイルが変革する「情報革命」を牽引し、世界の人々が最も必要とするテクノロジーやサービスを提供する企業グループとなることを目指しています。

現在は、情報革命をさらに推進していくため、今後の技術革新の中心的な役割を果たすと期待しているアームと、戦略的な成長分野への投資に経営資源を集中させています。

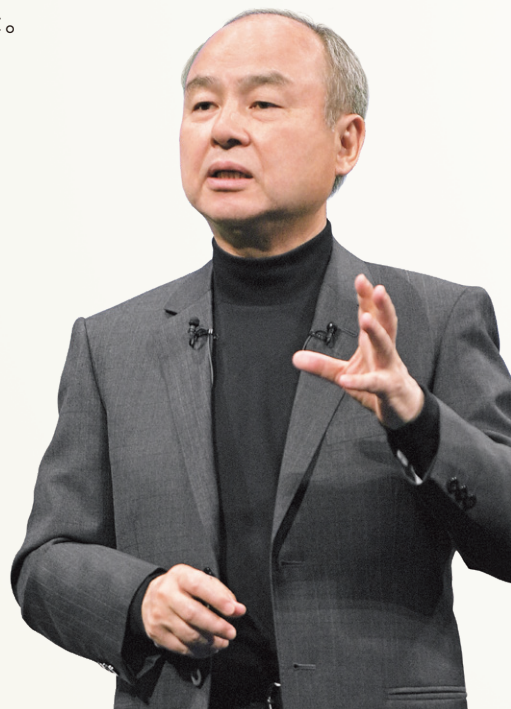
そうした中、当上期には、アームが米国NASDAQ市場に上場を果たし、当社の重要指標の1つである時価純資産(NAV^{※1})もアームの価値上昇に伴い16.4兆円に増加しました。また、純負債／保有株式比率(LTV^{※2})が示すように、歴史的に最も強い財務状況となり、今後のさらなる成長のために、機動的に投資を行っていく構えが整いました。

当社は、これからも市場環境の短期的なリスクに適切に対応しつつ、NAVの中長期的な最大化に取り組むとともに、より豊かな社会の実現を目指して、「情報革命」を牽引していきます。

ソフトバンクグループ株式会社
代表取締役 会長兼社長執行役員

孫正義

※1 Net Asset Value ※2 Loan to Value



2023年度上期の事業概況

2 2023年度上期の投資損失は9,636億円となりました。主に投資先の公正価値減少により、SVF※1事業で5,833億円※2、持株会社投資事業で4,135億円の投資損失をそれぞれ計上しました。これに加えて、主にアリババ株式に係るデリバティブ関連利益を計上した一方、為替差損や財務費用、SVFにおける外部投資家持分の増加額を計上したことなどにより、純損失※3は1兆4,087億円となりました。なお、中間配当は前年度と同額の1株当たり22円としました。

■ 連結業績

(億円)	2022年度 上期	2023年度 上期	増減額 (増減率)
売上高	31,825	32,271	446 (+1.4%)
投資損益合計	△8,496	△9,636	△1,140 (-)
税引前利益	2,926	△9,074	△12,001 (-)
親会社の 所有者に帰属する 純利益	△1,291	△14,087	△12,796 (-)



当社説明会資料のページはこちら▶

為替影響

為替換算レートが円安となったことは、当社のNAVと資本の増加要因となりました。NAVへの影響は、保有株式価値増加や純有利子負債減少を背景に1.9兆円のプラスとなりました。また、資本への影響は、機能通貨※4が外貨(主に米ドル)である当社子会社・関連会社の純資産価値が円ベースで上昇し、1.8兆円のプラスとなりました。一方、純利益については、主に当社単体の外貨建負債が外貨建預金・貸付金を上回っていたことから、円安の影響を受け為替差損を0.6兆円計上しました。

■ 円安はNAVと資本にプラスの影響

NAVへの影響

NAVの増加

+1.9兆円

会計への影響

資本の増加

+1.8兆円

純利益

-0.6兆円

※1 ソフトバンク・ビジョン・ファンド ※2 当社子会社等への投資にかかる投資利益を含まない ※3 親会社の所有者に帰属する純損失 ※4 事業活動上の主要な通貨

アーム上場、さらなる成長へ

2

2023年9月14日、アームは米NASDAQ市場への上場を果たしました。本IPOには数多くの戦略的投資家が参加し、半導体セクターにおけるアームの中核的地位を象徴するものとなりました。CPU設計のリーディングカンパニーである同社は、継続的な研究開発投資を通じて、優れたデータ処理能力と高いエネルギー効率を両立したテクノロジーを数多く開発・提供しています。

ア

ームのエネルギー効率に優れたプロセッサ設計とソフトウェア技術は、アームベースのチップを通じてセンサーから、スマートフォン、スーパーコンピューターに至るまであらゆる製品に使われており、特に、スマートフォンを含むモバイル機器においては99%のシェアを誇ります。アームは、長期的な収益成長を実現するために、インフラ、オートモーティブ、IoT(モノのインターネット)などの市場にも成長機会があると考え、これらの領域における新しい技術の開発にも注力しています。

■ 会社概要



会社名	Arm Holdings plc
設立	1990年11月
本社所在地	イギリス、ケンブリッジ
CEO	レネ・ハース
事業内容	マイクロプロセッサのIP* および関連テクノロジーの デザイン ソフトウェアツールの販売 および関連サービスの提供

* 回路の設計情報などの知的財産

■ アームのターゲット市場



コンシューマー向け端末

モバイル機器
ノートパソコン、タブレット
デジタルTV、ウェアラブル、VR等



オートモーティブ

先進運転支援システム
自動運転
デジタルコックピット



インフラ

クラウド/サーバー
5G無線ネットワーク機器



IoT

製造装置
都市インフラ管理システム
ビル管理システム

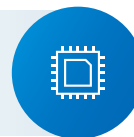
アームの技術に対する需要は本年度も
 堅調に継続しており、2023年度上期
 の売上高は1,447百万米ドル^{※1} (2,058億
 円)となりました。特に第2四半期は次世代ス
 マートフォン、自動車、デジタル家電および
 AI(人工知能)アプリケーション向けチップを
 開発する複数の企業と高額ライセンス契
 約を締結したことなどを背景に、四半期とし
 て過去最高の売上高を達成しました。今後も
 さまざまな領域でAIの導入が進む中、当社
 は、同社の技術が活用される機会が拡大する
 ことを引き続き期待しています。

■ 業界リーダーとの戦略が進展



Googleの最新スマートフォンPixel 8は
 アームの最新世代テクノロジー
 Armv9ベース

NVIDIA、アームベース
 「GH200 Grace Hopper Superchip」の
 第2世代を発表



ルネサスエレクトロニクス、自動運転向けの
 次世代チップに
 アームテクノロジーの採用を発表

アームによる新規株式公開

取引概要

9月14日	Nasdaq Global Select Marketに上場
5,123百万米ドル	本売出しによる当社の手取金
1ADS ^{※2} 当たり 51米ドル	公開価格 - 仮条件(47 ~ 51米ドル)の上限
520億米ドル	上場時 時価総額
90.0%	IPO後の当社による保有株式割合

会計処理

IPOにおける売出し後も当社はアーム株式の90%^{※3}
 を継続保有しているため、同社は引き続き当社子
 会社として連結

- 売出しに伴う売却益は連結損益計算書に計上せ
 ず、連結財政状態計算書の資本剰余金に売却益
 相当額46.5億米ドル(6,744億円)を計上
- 子会社株式は時価評価しないため、毎四半期末の
 株価の変動は連結業績に影響しない

※1 当社の要約四半期連結損益計算書におけるセグメント情報のアーム事業
 に関する開示数値 ※2 米国預託株式 ※3 2023年9月末の同社発行済株
 式総数(自己株式を除く) 1,025,234,000株に基づき算出

アームの事業およびテクノロジーに
 関する詳細な情報は、同社ウェブサ
 イトをご覧ください。▶



S VF^{*1}は、AIを活用した成長可能性の大きな企業へ投資しています。10年超のファンド存続期間を活かし、中長期的視点から投資成果を最大化することを目指しています。SVFのポートフォリオはAI革命を牽引する銘柄で構成されており、TikTokを運営するByteDanceやインドのフードデリバリー大手のSwiggy等AI技術を導入し業界をリードする企業に投資しています。

AI革命を牽引するポートフォリオ



S VFの活動開始来の投資先の株式公開実績は50件に達しました。また、日本を代表するスマートフォン決済アプリPayPayなど、上場が近いとされる投資先(レイトステージ投資) 価値の合計は現在290億米ドル(4.3兆円^{*2})を超えています。SVFは、引き続き革新的な企業への投資活動を継続します。

レイトステージ投資は順調



^{*1} ソフトバンク・ビジョン・ファンド1およびファンド2、ラテンアメリカ・ファンドを含む ^{*2} 1米ドル当たり149.58円で換算

〈サステナビリティへの取り組み〉

環境・社会課題の解決に資する企業への投資

当社グループは、革新的なテクノロジーやビジネスモデルを持つ企業への投資を通じて、気候変動や経済格差などのグローバルな課題の解決や、地球規模でのサステナビリティの実現に寄与できると考えています。そのため、当社グループで投資事業を担うソフトバンク・ビジョン・ファンドでは、AIを活用した気候テックやフィンテックなどのサステナビリティの実現に資する企業へ投資を行っています。また、ヘルステックにおいても、AIを中心にデジタル技術による革新的な変化が進んでいます。



Alto Pharmacyにおける医薬品配送の様子

例えば、投資先の1つであるオンライン薬局サービスを展開するAlto Pharmacyでは、提携する製薬会社による需給データの把握から、医師による処方箋発行、医薬品の配送、患者の適切な服薬までの流れを効率的かつ円滑にサポートしています。また、AIを活用したヘルスケアシステムを展開するForwardでは、先進技術と医師の知見を組み合わせ、患者の健康状態に合わせた質の高い個別化された予防医療を低価格で提供しています。

このように、人々の健康で明るい将来の実現のサポートをはじめ、今後も当社グループは環境・社会課題の解決へ向けて取り組んでいきます。

当社のサステナビリティに関する取り組みの詳細は、当社ホームページ「サステナビリティ」をご覧ください。



株主メモ

■ 事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
■ 期末配当金受領株主確定日	3月31日
■ 中間配当金受領株主確定日	9月30日
■ 定時株主総会	毎年6月
■ 上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
■ 公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL : https://group.softbank/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告します)

○住所・氏名など届出事項の変更、配当金振込先の指定について

証券会社等に口座を
お持ちの株主さま …… 口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。

特別口座をお持ちの
株主さま …… 下記連絡先(三菱UFJ信託銀行証券代行部)までお問い合わせください。
なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎします。

○未受領の配当金のお受け取りについて

支払期間経過後の配当金については、三菱UFJ信託銀行本支店までお問い合わせください。

株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 (郵送先) 電話: **0120-232-711** (通話料無料)
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 <受付時間> 土日祝日を除く平日 9:00 ~ 17:00

(注)旧株式会社アッカ・ネットワークス株式に係る特別口座管理機関へのお問い合わせ 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 電話: 0120-782-031 (通話料無料) (受付時間 土日祝日を除く平日 9:00 ~ 17:00)

- 本誌に掲載されている会社名、社名および商品・サービス名などは、各社の登録商標または商標です。
- QRコードはデンソーウェーブの登録商標です。
- 本誌の一部あるいは全体について、当社の許可なく複製および転載することを禁じます。

免責事項 本誌に掲載されている計画、見通し、戦略およびその他の歴史的事実でないものは、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、さまざまなリスクおよび不確実性が内在しています。実際の業績は経営環境の変動などにより、これら見通しと大きく異なる可能性があります。また、本誌に掲載されている当社および当社グループ以外の企業などに関わる情報は、公開情報などから引用したものであり、情報の正確性などについて保証するものではありません

ソフトバンクグループ株式会社

〒105-7537 東京都港区海岸1-7-1
電話: 03-6889-2000
<https://group.softbank/>

会社概要はこちらへ

ソフトバンクグループ 会社概要



2023年12月8日発行
Copyright © 2023 SoftBank Group Corp.
All Rights Reserved. Printed in Japan

